

彙 報

第十八卷第十二號 昭和七年十二月

南 旨 橋 架 設 工 事

箇 所： 朝鮮慶尙南道昌寧郡南旨里，洛東江

計畫概要： 本橋は南鮮の主要都市なる馬山，大邱兩府を連絡する重要路線にありて，馬山府より約30軒の地點に位置する洛東江に架設せんとするものなり。

本橋架設地點は從來渡船連絡なりしが危険にして且つ不便尠からざるを以て 窮民救済事業の一として昭和6年度より3箇年繼續事業として新橋架設に着手せり。

本橋附近の洪水水位は平水面上實に11米に及ぶことあり，且つ地盤は平水面下平均30米にして，岩盤に達すれ共それ迄は泥土を含まざる粗砂なるを以て基礎に18米及23米の井筒を使用し，橋脚數を減ずる爲ゲルバー式鋼構橋を採用せり。

設 計 荷 重： 二等橋荷重

橋 梁 型 式： 本 橋 スルー・ゲルバー式鋼構橋

取付橋 鐵筋コンクリート・ゲルバー式丁桁橋

橋 長： 390 米 { 本 橋 60 米 2 連， 70 米 2 連， 80 米 1 連
取付橋 16 米 2 連， 18 米 1 連

有 效 幅 員： 6 米

鋼 材 總 噸 數： 1 019 噸(鐵筋を含む) { 上部構造 887 噸
下部構造 132 噸

コンクリート總量： 2 822 立米 { 上部構造 555 立米
下部構造 2 267 立米

橋 臺 基 礎： 杭打鐵筋コンクリート

橋 脚 基 礎： 楕圓形井筒沈下深 { 23 米 1 箇所
18 米 3 箇所

工事概況： 下部工事は昭和6年9月15日起工，昭和7年6月6日下部構造の取付橋を除く外全部完成せり。

鋼材組立は5月20日より7月20日迄にステーク3回繰返し，一號橋脚より五號橋脚迄4連を組立て洪水期の8，9月は組立を中止し10月15日に完成せり。

橋床は洪水期構材組立中止中に240米間の床版及鋪裝を施工す。冬期井筒コンクリート作業は高級セメントを使用し，三寒四温の大陸的氣候を利用し温暖なる日を選び施工せり。

井筒底部は砂質なるを以て掘越80種にて双口の出を検査し水中コンクリートを施し，1週間後水替してその結果を検し尙厚2米のコンクリートを施し底部を完成す。

井筒内掘鑿は掘上掘鑿機(12才入)を使用し，井筒沈下標準工程は高級セメント使用の際1ロット(3.30米)を14日間，普通セメントの際は18日間なりき。

コンクリート作業は電動力なく且つ勞銀安きため全部手練とす。

使役人夫延人數 23 000人 (昭和7年10月15日迄)

工 事 費： 266 000圓

内 訳 本 橋 228 000 圓

取 付 橋 8 000 圓

器具器械其他 30 000 圓

工 事 執 行 者： 慶尚南道

設 計 者： 會 員 上 田 政 義 君， 山 田 義 雄 君

工 事 監 督 者： 森 吉 太 郎 君， 井 上 安 藏 君

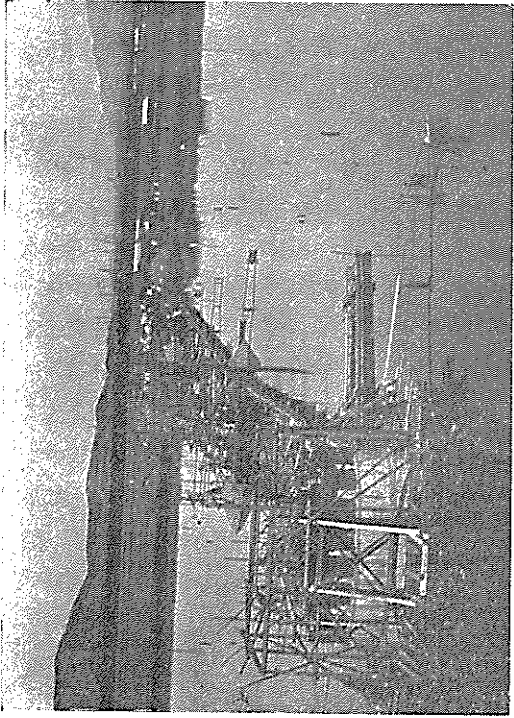
施 工 方 法： 請 負， 請 負 人 間 組， 鋼 材 製 作 者 大 阪 横 河 橋 梁 製 作 所

起 工 年 月： 昭 和 6 年 9 月

竣 工 豫 定 年 月： 昭 和 8 年 3 月

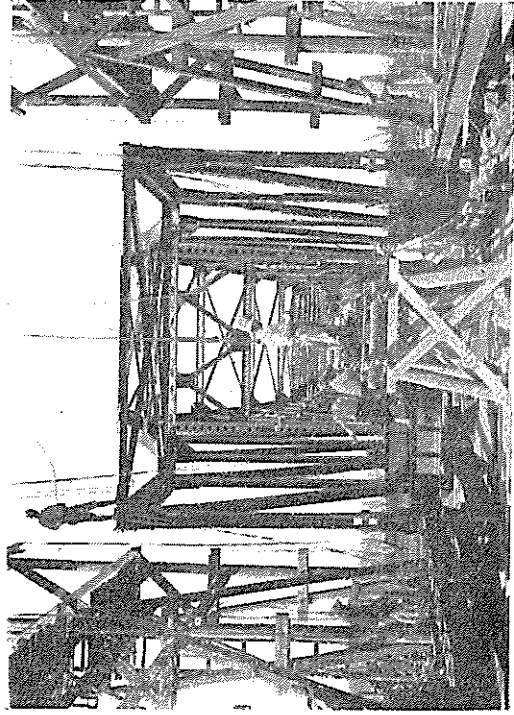
(此の報告に就ては井山安藏君の勞を煩はしたり，茲に感謝の意を表す)

寫眞第一 基礎工事作業全景

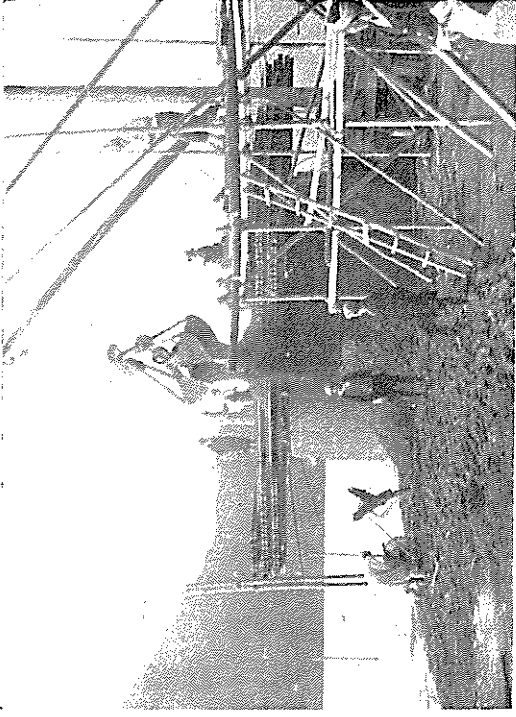


手前が五號オノーブ・ケトン

寫眞第三 鋼材組立

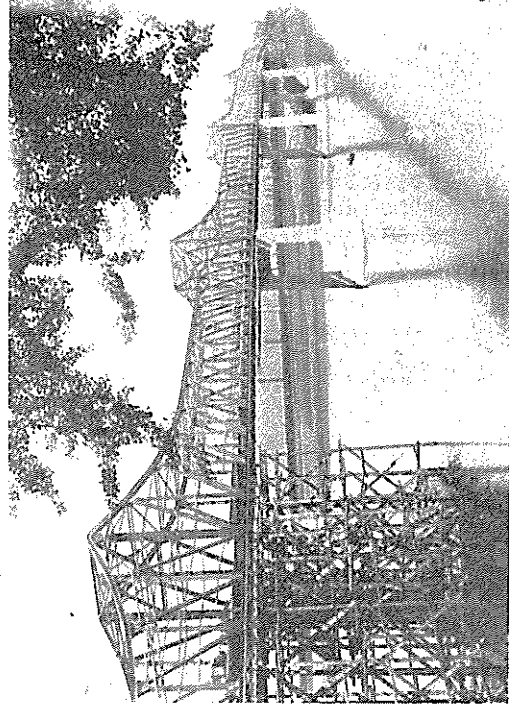


寫眞第二 井筒池下作業



第二號橋脚

寫眞第四



橋脚手前より 五、四、三、二、一 號

南 旨 橋 一 般 圖

